

教育長 殿

宮城県本吉響高等学校
校長 佐藤 正敏 印

令和6年度学校評価報告書

1 本年度の重点目標

○基礎学力の向上と家庭学習の習慣化	～自ら学ぶ姿勢の育成を目指して～
○規範意識の涵養と思いやる心の育成	～凡事徹底の意識向上を目指して～
○進路実現に向けた主体的行動の促進	～第一志望進路決定100%を目指して～
○自然や人との共生	～心豊かな人間の育成を目指して～

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	① 研究授業や学び合いをととした授業力向上について	A	研究授業における授業検討会では、ワークショップ形式を取り入れ、授業者自らのニーズを踏まえながら意見交換することで、評価の観点など具体的な授業力向上の研修機会となった。	A	A
	② 個に応じた学習指導	B	再指導制度が定着し今年度も一定の効果をあげている。次年度以降も、年次を中心にした定期考査前の個別学習指導など、より個の実態に応じた継続的なフォロー体制を図りたい。	A	A
学校関係者評価委員会における意見		個に応じた指導は徹底しており、学校公開週間での授業にもその様子が窺えた。今後も継続を求めたい。ICTを活用した授業が増えるなど職員研修の成果が感じられる。			
生徒指導	① 生徒が安全・安心に過ごせる学校づくりについて	A	防災分野での評価は生徒保護者とも昨年度を上回った。引き続き安全教育を徹底していく。講話やLHRの話し合いなど、自己理解・他者理解を図る取り組みを推進していきたい。	A	A
	② いじめ防止対策の周知について	B	生徒の肯定的評価は昨年度比1.1ポイント上昇した。引き続き、未然防止に努めると共に、保護者理解につながる取り組みを進めていきたい。	A	A
学校関係者評価委員会における意見		地域の声として、生徒の行動規範意識や品行等に高い評価があった。日頃の学校教育によるものが大きいと感じている。防災教育等での地域連携についても推進し、更なる安全安心な学習環境の実現を目指してほしい。			
進路指導	① 進路実現への意欲向上支援について	A	細やかな進路指導と地学地就コーディネーターとの連携により進路達成率100%となった。次年度も生徒のニーズに応じて必要な指導体制を確立し目標達成につなげていきたい。	A	A
	② 「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」の活用について	B	1年次の「産業社会と人間」と2・3年次での「総合的な探究の時間」における外部人材活用の有効性についての検証を続けながら、更なる指導力向上を目指し研修機会の充実を図りたい。	B	B
学校関係者評価委員会における意見		進学、就職とも個に応じた丁寧な指導体制があり、安心して学べる環境が整備されていることが伝わってくる。総合学科独自の特色ある探究学習において、外部人材の積極的活用等など更なる充実を図ってほしい。			
地域連携	① 学校情報の積極的な発信について	A	学校通信「ひびき通信」を年間で15号発行し、管内や近隣の中学校3年生全員を対象に配布を行った。学校HPのリニューアルを加えながら引き続き積極的な更新に努めていく。	A	A
	② 特色ある学校づくりについて	B	生徒・保護者ともに学校評価の肯定的評価はほぼ横ばいであった。次年度から運用を開始する教育DX推進事業を通して、本校独自の魅力ある学校づくりにつなげていきたい。	B	B
学校関係者評価委員会における意見		学校通信である「ひびき通信」やHPの更新など熱心な情報発信に努めている。魅力ある学校づくりの実態を継続して発信しながら、教育DX推進事業を活用した更なる特色ある学校づくりを進めていってほしい。			

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① ICTを活用した授業づくり	「ロイロノート」の活用推進や遠隔授業配受信等の運用と研修機会充実を図る。
② 個に応じた進路希望の達成	模擬試験や講習など、生徒の幅広いニーズに応じた進路指導体制を整備する。
③ 学校行事の活性化	学校行事や生徒会活動等について、生徒の意見を反映しながら活性化を図る。